

海外からたくさんの遺伝子組換え農作物が輸入されています。

現在、わが国では遺伝子組換え農作物の商業的な栽培は行われていません。

一方で、日本は大豆、とうもろこし、なたねなどの自給率がたいへん低いことから、そのほとんどをアメリカ、カナダなどからの輸入に頼っているのが現状です。

例えば、平成15年(2003年)では、大豆の年間消費量は約540万トンですが、このうち国内産でまかなえるのは約4%(23万t)です。残りの96%(517万t)は海外からの輸入に依存していて、アメリカからの輸入量は386万t、ブラジルは89万tなどとなっています。アメリカの大豆栽培面積の8割以上は遺伝子組換え大豆で占められていることから、相当量の遺伝子組換えの大豆が輸入されていると考えられます。

大豆の需給状況(平成15年)

<供給>

国産	23万トン
輸入	517万トン
アメリカ	386
ブラジル	89
カナダ	19
その他	23
合計	540万トン

<需要>

製油用	401万トン
食品用	104万トン
その他	12万トン

資料：(社)農林水産先端技術産業振興センター資料ほか

近年の主な国の状況

商業栽培国(21ヶ国)

